

「4 台風が近づいてきたら」

- 学習のねらい： 1. 年々勢力を増す台風に対する事前行動計画を立てることができる。
 2. 自分の学校や地域で起こる可能性のある風水害について調べる。
 3. 早めに避難行動することの大切さを理解する。

(指導上のポイント)

◆台風は地震と違い予測できる災害であるので事前の準備が大切であることを指導する。

◆台風等から身を守るためには、普段からどのような備えが必要であるかを考えさせる。

例) ・ 気象情報の入手先

- ・ 避難場所・ルートの確認 等

◆台風が数日中に近づきそうな時にはどのような備えが必要であるかを考えさせる。

例) ・ 最新の情報を入手

- ・ 家の中 (非常用物資等) ・ 外 (雨戸閉める等) の備え
- ・ スマートフォン等の充電、懐中電灯等の用意 等

◆台風が近づいた時に身を守るのに必要なことについて考えさせる。

例) ・ 危険な場所には近づかない

- ・ むやみに外に出ない。など

◆雨が上がった後でも川や水路に近づかないよう指導する。

(次年度以降の展開例)

- ・ 過去の水害事例について調査して発表する。
- ・ 洪水ハザードマップ等で洪水の浸水地域について学習する。

等が考えられます。

4 台風が近づいてきたら

(1) 事前の防災行動計画を作成してみよう

大規模災害を最小化するためには、災害発生前からの対応が大切です。台風が発生した場合に、あなたが取るべき行動について時間の経過にそって、書いてください。
 なお、台風の大きさや強さ等によって台風・気象・避難情報が変わります。

	起こりうる自然現象	気象情報等	避難情報	あなたが取るべき行動
台風発生・発達期	赤道付近で熱帯低気圧発生。 高波 強風	台風発生 台風上陸の可能性 強風注意	R3.6~「高齢者等避難」に	自分の場所(自宅)
台風接近期	台風が近づいてくるにつれ大雨が降り続く。 大雨 土砂災害	大雨注意報 大雨警報・洪水警報 土砂災害警戒情報	避難準備・高齢者等避難開始	・避難所、避難路の確認 ・防災グッズ用意 ・自宅(雨戸等)の確認 ・テレビ等による台風進路等の確認
台風上陸期	大雨が降り続いて、さまざまな災害が発生する。 暴風 高潮 洪水 災害発生	大雨・暴風高潮・波浪特別警報	避難指示(緊急)	・防災行政無線等による避難準備情報確認 ・防災行政無線等による避難勧告の確認
台風通過期	大雨が続く。 はんぱ発生情報 警報の継続		R3.6~「避難指示」に一本化	・避難行動開始 ・避難完了 ・待機継続 ・気象情報を確認

(2) 災害について調べる

あなたの学校付近や地域で起こる可能性のあるものは□にレ点をつけよう。

<input checked="" type="checkbox"/> 土砂災害	<input checked="" type="checkbox"/> 低地の浸水	<input type="checkbox"/> 河川の増水氾濫
<input type="checkbox"/> 高波	<input type="checkbox"/> 高潮	<input type="checkbox"/> その他()



(3) 早めに避難行動を取ろう

巨大な台風などにもなると、洪水や土砂災害などの災害が発生する可能性があります。避難指示が出ていたらすぐに避難しよう。

①あなたの家では避難に備えて、どのような準備をしていますか。

非常用持ち出し袋を用意する。
家族防災会議を開いて避難ルートを確認する。等

②あなたが避難することになった場合、どこに避難すればよいですか。

●●小学校、
▲▲地区センター 等

③家族全員が無事に避難できるように、どのような行動をとるべきでしょうか。

祖父母の手を握り、避難所まで誘導する。
妹(弟)を背負うなどして一緒に避難する。

※豪雨や夜間の場合など、避難所までの移動がかえって危険なときは、近隣のより安全な場所へ移動するか、自宅の2階以上(垂直避難)に移動するなど安全な場所へ行こう。

弱
警戒レベル

強

避難準備・高齢者等避難開始

- 避難に時間のかかる高齢者等の要配慮者は立退き避難します。
- その他の人は立退き避難の準備をし、自発的に避難します。

避難指示

- 指定緊急避難場所等への立退き避難を基本とする避難行動をとります。
- 災害が発生するおそれが極めて高い状況等で、指定緊急避難場所への立退き避難はかえって命に危険を及ぼしかねないと自ら判断する場合には、近隣の安全な場所への避難や建物内のより安全な部屋への移動等の緊急の避難をします。

10

(指導上のポイント)

◆災害時には市町長が避難指示を発令する場合がありますが、災害時の避難で何よりも大切なことは、「危険を感じたら自らの判断で早めに避難すること」を指導する。

【用語解説】低地の浸水(内水氾濫)とは：

河川の水を外水と呼ぶのに対し、堤防で守られた内側の土地(人がすんでいる場所)にある水を「内水(ないすい)」と呼びます。大雨が振ると、側溝・下水道や排水路だけでは降った雨を流しきれなくなることがあります。このように、内水の水はけが悪化し、建物や土地・道路が水につかまってしまうことを「低地の浸水(内水氾濫)」といいます。

(指導上のポイント)

◆地域等で起こる可能性のある災害をしり、防災に役立てることを指導する。

◆サイト等を利用して調べてみる。

・土砂災害情報提供システム(県)

<https://www.sabo.pref.mie.jp/Top.aspx>

・各市町洪水ハザードマップ(県)

<http://www.pref.mie.lg.jp/D1BOUSA/75148007862.htm>

・ハザードマップポータルサイト

(国土交通省)

<http://disaportal.gsi.go.jp/>

◆ショッピングセンター駐車場等では調整池となり水没することがあることを指導する。

(指導上のポイント)

◆普段から準備することの大切さ、家族で話しあっておくことの必要性について指導する。

◆台風や大雨等は気象庁が発表する注意報や警報に注意し、危険が迫る前に避難することが大切であることを指導する。

◆各地域の避難場所を各市町防災担当部署などで確認しておく。また、地域によっては、地震と風水害で避難場所が異なっている場合がある。

※県防災対策部 HP

「避難所・防災マップ」

http://www.bosaimie.jp/resource/1495426761000/X_MIE_ne000

◆発達段階に応じて、中学生は、災害から自分の身を守るだけでなく、家族や他人のためにできることを積極的に行うことが求められていることを理解させる。

(確認)

台風に向けて事前行動を行い、早めの避難行動をとる必要があることを理解できたか。